

2018
7月15日
発行号

かなおと 菅直人の市民政治レポート

編集発行：菅直人を応援する会 / 〒180-0006 武蔵野市中町1-2-9 サンローゼ武蔵野302 TEL: 0422-55-7010



立憲民主党の目指すもの

- 囲み ● パートナーズへの参加のお願い
- 裏面 ● 《活動Album》2018年上半期を振り返る

世界の激動と日本の将来

早いもので2018年も半年が経過しました。北朝鮮の非核化をめぐる動きや貿易戦争など世界は激動しており、その中で日本は人口減少社会が本格化し、今後衰退の道を歩むのか、それとも新しい安心、安定の社会を実現できるのか、大きな岐路に立っています。

その中で誕生した立憲民主党が何を目指そうとしているのか述べてみます。

立憲民主党の次の一歩

「枝野立て！」の国民の声に押されて誕生した立憲民主党は、その原点を大切にしながら次の一歩を歩みだしました。昨年の総選挙では小池都知事の「希望の党」が政権交代を目指して多くの候補を擁立しましたが、「排除」発言で失速し、選挙直前に立ち上がった立憲民主党が予想を超えた支持を得て野党第一党に躍り出ました。総選挙後、希望の党や民進党は再編を急ぎました。しかし私たち立憲民主党は永田町での再編ではなく、いかにすれば「枝野立て」という国民の声に応えられる草の根に根ざした政党を実現できるかを最重点の課題と考え、行動を始めました。

民主党時代の反省

枝野代表がこうした姿勢を貫いているのは、過去の反省があるからです。それは私自身の反省でもあります。その反省とは、1996年にスタートした民主党は、その後多くの政党、政治グループと合併を重ね、野党第一党となり、2009年に政権交代を果たすことができました。つまり永田町での再編により政権交代には成功したのです。しかし、民主党政権は3年半で幕を閉じてし

まいました。その理由はいろいろありますが、最大の理由は草の根に十分根を張ることができなかったからだと考えています。政党の合併で政策があいまいになり、ガバナビリティが不足しました。こうした民主党時代の反省に立って、立憲民主党は総選挙後、永田町での多数派工作よりも広く草の根に根を張るための行動を優先してきたのです。

政策立案への参加

その大きな一つが多くの人に政策作りに参加してもらう試みです。最初の具体的な試みは「原発ゼロ法案」でした。まず今年初め「原発ゼロ法案」の骨子を発表し、全国17か所でミーティングを開き、約2000名のみなさんから意見を聞いて法案をまとめました。その中には小泉元総理が顧問を務められている「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟（原自連）」との意見交換も含まれています。こうしてまとまった「原発ゼロ基本法」は原自連からも賛同を得て、立憲民主党、共産党、自由党、社民党4党と2名の無所属議員が提案者となって3月9日、国会に提出しました。

現在この法案は衆院の経産委員会にかかっており、与野党理事が合意すればすぐにでも審議を始めることができる状況です。

パートナーズ制が第一歩

立憲民主党はこうした草の根からの参加型政党を目指しています。そのため、従来の「黨員」を中心とし「サポーター」が支えるという形ではなく、もっと多くの人に積極的に参加していただける政党づくりを考えています。つまり、政策立案や政策実現のための実践活動に

参加する「パートナーズ」が中心となる政党を構想して、具体化を進めています。その最初の試みが「原発ゼロ基本法」の立案だったことは先に述べたとおりです。

秋に予定している立憲民主党結成大会も、アメリカの民主党、共和党の党大会のように、何千人もの参加者が自らの主張をアピールするいろいろな催しを自主的に企画するような形を考えています。

もちろんパートナーズ制は初めての試みであり、試行錯誤が続くでしょうが、新たな草の根の参加型政党と一緒に作り上げることができれば日本の政治史に新しい1ページを飾ることになるでしょう。

2018年後半の見通し

7月22日まで延長された国会が終われば、自民党は総裁選に突入します。会期末には安倍内閣不信任決議案が出される可能性が高く、安倍総理がどう対応するかが問われます。総裁3選が確実と考えれば肅々と不信任案を否決し、総裁選に臨むでしょう。しかし、支持率の低下などで総裁3選に赤信号がともれば、解散に打って出る可能性も否定できません。3選できなければ安倍総理念願の憲法改正が頓挫するからです。

政権交代の可能性

昨年の総選挙では自公与党が議席数では3分の2以上占め、大勝しました。しかし冷静に票を分析してみると、自民党が獲得した小選挙区での票は有権者の25%にすぎません。比例選では自民党が約1860万票、公明党が約700万票で、合計2560万票でした。これに対して立憲民主党は約1100万票、希望、共産、社民の三党の比例票を合わせると2610万票で、自公を上回っています。

衆院選でも参院選でも、一人区では野党が候補者を一人に絞る住み分けをし、複数区と比例区では独自性を出して戦えば与党を過半数割れに追い込み、枝野政権を实

現することは決して夢ではありません。

日本の将来像を探る



私は「最小不幸社会」の実現という言葉を経長く自らの政治目標として掲げてきました。政治の役割は人々の不幸を最小化することにあるという考え方です。

近年の人口減少や高齢者の増大によって日本の将来に不安を感じる人が多くなっています。しかし、私はかつてのような高度成長時代の再来はなくとも、日本は安心で安定した「最小不幸社会」を実現することが十分に可能だと考えています。その一つのカギは農村の活性化にあります。

5月の連休に岡山県の北東部の西粟倉村を訪ねました。人口1500人の小さな村ですが、合併せず、若者が地元の材木を材料に家具を製造する会社を立ち上げ、使われなくなった小学校に小さなベンチャー企業が事務所を連ねて、村営の小水力発電で新たな財源を生み出していました。外から西粟倉村に来た若者から話を聞くと「都市と同じレベルの収入が得られ、都市と同じような利便性があれば、地価も安く、子育てには都市より農村が適している」と話していました。村の人も、若者の移住で子どもが増えて小学校や幼稚園が存続できたとみんな喜んでいました。

ドイツやフランスでは農村の人口は減っていません。農村地域でも生活の質が高いからだと思えます。そして自然が豊かで地価の安い農村地域こそ、太陽光発電や小水力発電など再生エネルギーを自給し、さらにはかつてのように都市に自然エネルギーを供給できるはずで

私自身の家も祖父の代までは岡山県の田舎に代々住み続けていました。

農山村が若者にとって魅力的な地域になり、子育てしやすい出生率の高い地域のなることこそが、日本の将来を明るくする道だと思えます。

パートナーズへの参加のお願い

これまでの日本の政党は、どこか政治家と国民の間に壁をつくってきました。「立憲パートナーズ」は、「黨員」や「サポーター」といった政党の応援団ではありません。政治家の対等なパートナーとして、立憲民主党が実現すべき社会に向かって、ともに議論し行動するネットワークです。あなたもパートナー登録をして、ぜひこのチャレンジにご参加ください。

《パートナー登録をするには…》別紙「立憲パートナーズ登録案内」に従ってお申し込み下さい。菅直人のホームページにも詳細案内があります。

※ 今号の市民政治レポートと同送された郵便振替用紙に必要事項を記入して、登録料500円（年額）をお振込みいただくと、入金確認後に登録完了。

立憲partners
あなたと政治の新しいプラットフォーム

※ 8月30日(木) 18:30~ 後楽園ホールにて、立憲民主党東京都連合主催のパートナーズ集会を開催予定です。

Activity Report

活動報告

活動 ALBUM

2018年上半期を振り返る

日々の活動報告は、主にFacebook、Twitter、ブログ「今日の一言」にて

01.01 府中・大國魂神社 初太鼓



元旦に府中・大國魂神社にて初太鼓を打った後、日本の平和と繁栄、一人一人が安心して暮らせる社会となるよう、また世界の平和を願い、新年のご挨拶をさせていただきました。

01.05 国会前デモでスピーチ



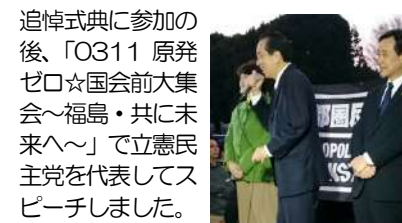
2018年最初の脱原発を訴える国会前デモで「来年の参院選では1000人委員会を作って「原発ゼロ候補」をみなさんの力で国会に送ろう」と呼びかけました。

01.28 「立憲民主党との大対話集会」に参加



無党派の市民グループ主催の集いに、400名を超える市民が参加。立憲民主党からは枝野幸男代表をはじめ、菅を含む20名を超える国会議員が参加しました。政党が支持者を集めるのではなく、無党派の市民が政党の代表などを招いて対話集会を開くのは極めてまれ。

03.11 東日本大震災七周年



追悼式典に参加の後、「0311 原発ゼロ☆国会前大集会〜福島・共に未来へ〜」で立憲民主党を代表してスピーチしました。

03.21 子どもと将棋対戦



「第11回 武蔵国 府中けやきカップ」の会場子どもたちと自由対局。かなりの苦戦を強いられました。

04.25 園遊会



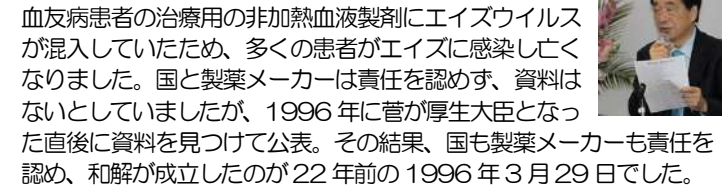
赤坂御苑で開催された園遊会に夫婦で参加。元参議院議長の江田五月さんに撮っていただきました。

02.09 「原発ゼロ基本法案」タウンミーティング



武蔵野市で、立憲民主党「原発ゼロ基本法案 タウンミーティング」を開催。8人の国会議員と地方議員、市民のみなさん約100人が参加。菅も地元の議員として挨拶。「原発ゼロ実現のために政党と市民は何をしていくべきか」などのテーブル毎の少人数での熱心な議論に議員も参加。立憲民主党が「立憲電力」をつくっては、などと魅力的な提案も飛び出しました。

03.24 薬害エイズ裁判和解22周年集会



血友病患者の治療用の非加熱血液製剤にエイズウイルスが混入していたため、多くの患者がエイズに感染しなくなりました。国と製薬メーカーは責任を認めず、資料はないとしていましたが、1996年に菅が厚生大臣となった直後に資料を見つけて公表。その結果、国も製薬メーカーも責任を認め、和解が成立したのが22年前の1996年3月29日でした。

03.24 原発事故避難指示区域外避難者の住宅問題を考える



緊急政府ヒアリングに参加しました。主催は、避難の協同センターと子ども被災者支援議員連盟です。菅は、福島原発事故がなければ避難する必要がなかった自主避難者のみなさんに対する住宅支援の継続を訴えました。

05.30 誰のための原発輸出？ 英ウェールズ住民来日セミナー



主催はFoE ジャパン。日立の子会社が、ウィルヴァ原発建設を計画し、政府系の国際協力銀行等が融資を検討しています。菅は2015年に地元の反対運動に招聘された経験から発言しました。地元では菅の訪問後に世論が脱原発に転換！

Activity Report

活動報告

2月6日 衆院予算委員会で「原発ゼロ」を巡り、安倍首相と論戦



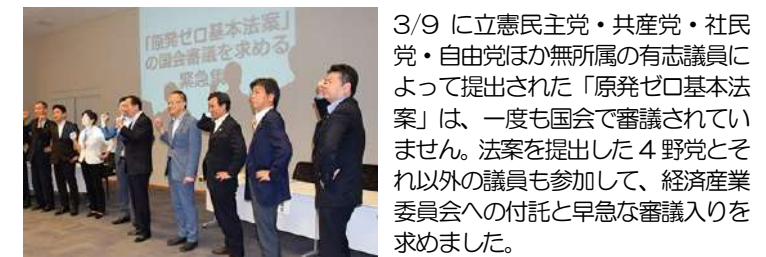
衆院予算委の質問に立ち、2011年の東京電力福島第1原発事故で対応にあたった経験を踏まえて安倍政権の原発政策をただし、「原発ゼロ政策」の是非や再生可能エネルギーの振興、送電線の空き容量問題などについて迫りました。「原発ゼロは責任ある政策とは言えない」という安倍総理に「原発ゼロこそ責任ある政策だ」と全面的に反論。安倍総理は福島原発事故の発生を防げなかった責任は自民党政権にもあることを認めました。

04.13 朗読劇「線量計が鳴る」アフタートークに出演



武蔵野芸術劇場で中村敦夫さんによるひとり語り、福島原発事故をテーマにした朗読劇『線量計が鳴る』が上演されました。会場はキャンセル待ちも出る満員御礼！ 上演後も、俳優の金子あいさんの司会で菅と中村敦夫さんによるアフタートークに会場が沸きました。

06.08 「原発ゼロ基本法案」の国会審議を求める緊急集会



3/9に立憲民主党・共産党・社民党・自由党ほか無所属の有志議員によって提出された「原発ゼロ基本法案」は、一度も国会で審議されていません。法案を提出した4野党とそれ以外の議員も参加して、経済産業委員会への付託と早急な審議入りを求めました。

05.20 第15回ソウル環境映画祭



アジア最大規模の国際環境映画祭に招待されました。『太陽の蓋』上映会後の座談会「エコフォーラム―脱原発以降を準備する―」に参加。パネラー：橘民義（『太陽の蓋』製作者）／チェ・ヨル（環境財団理事長）／キム・イクジュン（東国大学教授・原子力安全委員会委員）他。自治体に立憲民主党の議員を増やすために、各地の選挙応援に駆けつけています。立川市の「いなはしゆみ子」さんはトップ当選。

3月12～17日 福島原発事故から丸7年。フランスで脱原発講演＆視察

仏の脱原発運動団体や国会議員の招聘を受け、パリ、ストラスブール、シェルブールで講演と意見交換会を行い、フラマンヴィル原発やラ・アーク再処理施設、核廃棄物貯蔵場などを視察しました。

- 脱原発に最も本気で若手も多い議員グループ「不服従のフランス(LFI)」の招きで国会へ。メランション党首とも会談。「世界のどこにも原発はいらない」と訴えました。
- ストラスブールの欧州議会場で講演。欧州議会議員(緑の党)のみなさんと意見交換。
- パリにて、映画『太陽の蓋』の上映会で舞台挨拶と質疑応答。
- コタンタン半島にあるフラマンヴィル原発(第3世代の欧州新型軽水炉)、ラ・アーク岬の再処理工場(六ヶ所村のモデル)と核廃棄物貯蔵施設を視察。